県土 無情の風雨

台風19号

見回り中、車転落か 田野畑 死亡

仮設、避難所も浸水 釜石

大型の台風19号が最接近した13日、本県は記録的な豪雨に見舞われた。田野畑村では岩泉町の男性が崩落した村道に車ごと転落して死亡。土砂崩れや冠水が相次ぎ、浸水被害は仮設住宅や避難所へも及んだ。本県初の大雨特別警報が出された大型台風は、県内各地に爪痕を残した。

【本記1面】

崩落した道路に転落した軽トラック。運転していた男性が死亡した＝13日午前9時半ごろ、田野畑村浜岩泉

ガードレールが宙に浮き、道路が消えていた。同村浜岩泉の崩落現場。村や消防、家族によると、13日午前2時20分ごろ、岩泉町の養殖業穂高正美さん(71)が軽トラックごと転落。同町内の病院に運ばれたが、死亡が確認された。崩落箇所は長さ最大約17メートルにわたり、落差は約6・3メートルあった。

家族によると、穂高さんは過去の大雨時と同じように、魚の養殖池の点検に見回っていたとみられる。家族は「にこにこして優しい笑顔が印象的で、長年養殖業に携わり仕事にも熱心な人だった」と声を絞った。

県内では土砂崩れや強風で4人が重軽傷を負った。釜石市片岸町の民宿・室浜の宿（高柳正徳管理人）は裏山が崩れ、土砂が流入。押し流された高柳管理人は肋骨骨折などを負った。

浸水被害も多発した。同市天神町の天神仮設団地で床上まで水に浸った会社員篠原洋介さん(41)は「（13日）午前0時ごろから外が冠水した。家族と避難した時には30センチほど水に漬かり、朝に戻ってきた時も20センチほど水が残っていた」と嘆いた。

同市唐丹地区では拠点避難所の唐丹小・中体育館が数センチ水に漬かった。避難した約70人はさらに高台の校舎側へ移ったが、唐丹中の金野学副校長(54)は「体育館周辺の排水能力の向上など新たな課題が生じた」と指摘した。

13日夕までの48時間降水量が観測史上最大の467ミリに達した普代村。中心部の国道45号と沿線の家屋に土砂や流木が押し寄せた。粘り気の強い泥には、倒れたオイルタンクから流れ出たとみられる灯油が混ざり、つんとした臭いが鼻を突いた。

住民や自衛隊が重い土砂を撤去し、国道は夕方までに開通したが、一夜にして一変した地域の復旧は時間がかかる。「まさか土砂崩れで被害が出るとは。台風でこんな被害になったのは初めてだ」。自宅兼店舗の1階が床上浸水した同村普代の商店経営中村浩子さん(74)は天を仰いだ。

東日本大震災や2016年台風10号の被災地も容赦なく襲った未明の豪雨。大槌町は小鎚、金沢両地区を除く地域で13日午前から約5時間にわたり断水した。宮古市重茂や山田町船越地区などでは集落が一時孤立し、久慈市田屋町でも一帯が冠水するなど被災者の疲労の色は濃い。

津波と火災で全壊した自宅を6年前に再建した山田町船越の看護師矢口由美子さん(39)は「家の床上140センチまで水が入った。再建した家がまたも被災し、どこにもぶつけられない怒りと、悲しさがある」と肩を落とした。

道路陥没、車2台転落 釜石・鵜住居

13日午後9時10分ごろ、釜石市鵜住居町の市道が陥没し、車が転落していると通行人から110番通報があった。

同市によると、陥没箇所は幅、深さとも約10メートル。車2台が転落し、3人が巻き込まれた。男性1人、女性2人が救助され、市内の病院に搬送された。いずれも意識はあるもよう。

現場はかまいしワーク・ステーションから根浜地区に向かう坂道。付近では台風19号による土砂崩れが発生していた。

ヘリ救助中に落下死

福島 77歳女性 隊員、フック忘れる

13日午前10時ごろ、福島県いわき市の平地区で、東京消防庁の大型ヘリコプター「はくちょう」の隊員が、台風19号で孤立状態だった77歳の女性を救助する際、女性の救助装置のフックを忘れたまま抱きかかえてつり上げ、上空約40メートルで誤って落下させた。再びつり上げて救助したが、女性は約6時間半後に病院で死亡した。

福島県警は業務上過失致死の疑いも視野に、隊員らから事情を聴き調べている。

東京消防庁は同日午後、庁内で記者会見を開き、清水洋文次長が「申し訳ありませんでした。活動中の手順を誤った」と謝罪した。

同庁によると、いずれも32歳の男性隊員2人が救助に当たっていた。それぞれ航空隊で1年半と2年半の救助経験があった。当時行っていたのは「ホイスト救助」と呼ばれ、袋状の救助装置（長さ約1メートル、幅約60センチ）に女性の体を包み、隊員が抱きかかえてロープでつり上げる方式だった。機内に移す際に落下させたという。隊員のフックはロープとつながれていた。

記者会見で救助装置について説明する東京消防庁の幹部（左）ら＝13日午後、東京消防庁本部庁舎

気付けば逃げ遅れ「まさか」 全国各地の被災地

千曲川の堤防が決壊し、長野市穂保地区は多くの住宅が濁流にのまれた。一面、泥の海。「信じられない」。住民は悲痛な声を上げた。

「ガラスがバリバリと割れて、ドアが外れる音がした。水位がどんどん高くなり、本当に怖かった」。農業、吉村静子さん(86)は自宅1階が浸水し、車2台も流された。13日朝、家族4人で自衛隊のヘリコプターに救助された。「甘くみてしまった。避難しておけば良かった」

自動車工場を営む田中淳一さん(54)は、9月の台風15号のニュースを見て、対策をしていたが「まさか水が来るとは思わなかった。工場の復旧を考えると泣けてくる」と途方に暮れた。

宮城、福島両県を流れる阿武隈川流域は、広い範囲で住宅の1階部分が茶色い水に漬かった。宮城県丸森町では、町役場を含む中心部一帯が浸水。2階ベランダから助けを求める住民は疲労感をにじませ、水没した自宅を不安な表情で見つめる姿もあった。

丸森町で食堂を営む白木順子さん(56)は「家の近くの道路が川のようになっていた。断水し、店の再開のめども立たない」とうつむいた。

秋山川の堤防が決壊した栃木県佐野市。13日、辺りは土色に染まり、押し流された車が無残に横転していた。近くでラーメン店を営む木塚儀隆さん(47)は12日午後9～10時ごろ、浸水に気付き、自宅2階で恐怖におびえながら一夜を過ごし、難を逃れた。変わり果てた風景に「どうしようもない」と頭を抱える。

冠水した市街地を上空から警戒する自衛隊ヘリ＝13日午前8時16分、長野市穂保（共同通信社ヘリから）

紙風船

◇…ラグビーワールドカップ（W杯）ナミビア代表の選手ら25人は13日、宮古市の宮古駅などを訪れ、台風19号に見舞われた市民らを元気づけた＝写真。

◇…同日のカナダ戦が台風で中止となり、ナミビア代表が「台風で被害を受けた市民を激励したい」とキャンプ地の同市に打診。交流会が実現した。

◇…ラグビーに励んでいる阿部優真君（宮古小6年）は「体を大きくして頑張りたい」と興奮気味。世界のラガーマンが被災したまちをがっちりサポート。

この紙面の著作権は岩手日報社が保持しています。無断転載、複製及び配布は禁止します。